

平成30年度 全国学力・学習状況調査

全国学力・学習状況調査

調査の概要

文部科学省では、平成19年度から小六、中三の児童生徒を対象に、「全国学力・学習状況調査」を実施していく、今年度は4月17日に調査が実施され、7月31日に結果が公表されています。

調査は、国語および算数・数学について、主に知識に関する問題（国語A、および算数・数学A）と、主に活用に関する問題（国語Bおよび算数・数学B）と今年度は理科についても実施しています。また、児童生徒の生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査も実施しています。

結果の概要

教科に関する調査（表1・2）

小学校は、市の平均が、すべての教科で全国平均を上回り概ね良好と言えますが、秋田県平均と比べるとやや下回る結果となりました。中学校は、市の平均が、すべての教科で全国平均を上回り、県平均と比べてもほぼ同等の結果で良好な状況にあると言えます。

結果の考察

小学校国語は、言語に関する問題の正答率が全国平均と比べると非常に高い結果となっていますが、「相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができる」の設問では、同等の結果で良好な状況にあると言えます。

中学校数学Aでは全ての領域において県平均を上回りました。数学Bでも「関数」以外は、県平均を上回るなど良好な結果でした。全国平均、県平均と比べて下回ったのは、「資料2」の折り目の線と角の二等分線の関係を理解しているかどうかを見る問題でした。これらの中には、辺ACが辺ABに重なるように折ると、頂点Bと頂点Cが重なると捉えた生徒がいるのではないかと考えられます。

中学校理科は、ほぼ県平均並みの正答率となっていますが、地学の分野では、全国平均をやや下回りました。

質問紙調査の結果では、小・中学校ともほぼすべての質問項目で良好な回答をしています。特に、「自分にはよいところがあると思う。」と回答した児童生徒の割合は、全国を大きく上回っています。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」というふうに回答した児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られます。しかし、「算数の勉強が好きだ。」「算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。」と回答した児童の割合は、県平均より下回つていって、算数好きな子どもを育てる方策が必要です。また、中学校で、「将来の夢や目

表2 教科に関する調査結果(中学校)

中3 平均正答率の比較

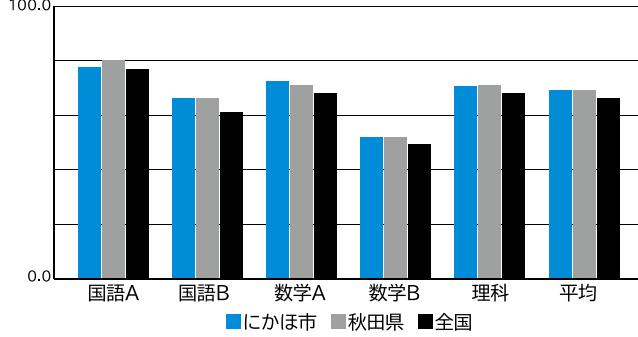
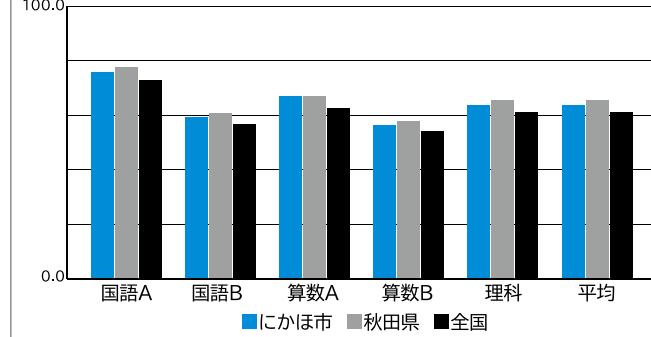
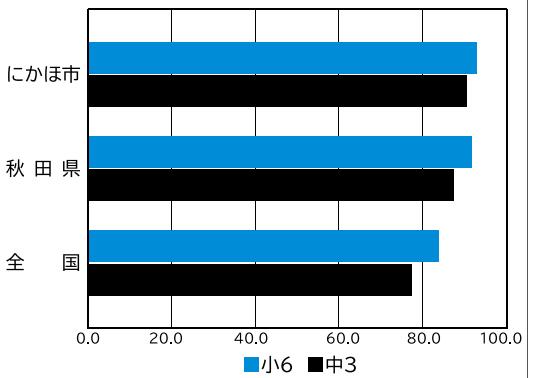


表1 教科に関する調査結果(小学校)

小6 平均正答率の比較



自分には、よいところがある



資料2 中学校数学A 4(2)

次の図の△ABCを、辺ABに重なるよう折ったときできる折り目線を作図しようとしています。どのような線を作図すればよいですか。下のAからEまでのうち正しいものを1つ選びなさい。

A → E

ア 頂点Aを通り辺BCに垂直な直線
イ 頂点Aと辺BCの中央を通る直線
ウ 辺BCの垂直二等分線
エ ∠A二等分線

【正解率】市51.5% 県57.6% 全国54.9%

資料1 小学校算数B 2(2)

1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするためには、球を投げる時間を、40秒、50秒、60秒どれにすればよいですか。
入った球を1個あたり2秒で数えることとし、下の表にある4つの口の中にあてはまる数を書きましょう。
そして、()の中には40、50、60のいずれかの数を書きましょう。

球を投げる時間	入った球を数える時間	1回の玉入れゲームの時間
40秒	51個	102秒
50秒	64個	
60秒	80個	

玉を投げる時間を()秒にすればよい。

【正解率】市43.8% 県50.4% 全国47.9%

課題の解決に向けて

標を持っている」と回答した生徒は、全国平均より高いものの、県平均よりやや低くなっています。そこで、校種間の連携や接続を図り、生徒や地域の実態に応じたキャリア教育を一層進めていく必要があります。

この他、問題文を読んで問われていることを理解したり、要旨をとらえたりすることにも課題が見られます。さらに質問項目の「家で予習・復習やテスト勉強などの自學学習において、教科書を使いながら学習している。」と回答した児童生徒の割合は、県平均より5ポイント以上、下回っています。このことから、学校だけでなく、家庭でも教科書を読んだり、大事なところに線を引いたり、大事なことを自分でまとめる学習も必要と思われます。

にかほ市の未来を担う子どもたちの学力向上のために、今後ともご協力をお願いします。

中学校国語Aは、やや県平均を下回りました。国語Bでは、「読む」との領域についても課題が見られました。

昨年同様、「課題の解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいた。」「話し合う活動を通じて自分の考え方を深めたり、広げたりすることができます。」と回答した児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られました。このことから、学校教育において、引き続き、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善を行い、授業の質を一層高めていくことが大切です。

この他、問題文を読んで問われていることを理解したり、要旨をとらえたりすることにも課題が見られます。さらに質問項目の「家で予習・復習やテスト勉強などの自學学習において、教科書を使いながら学習している。」と回答した児童生徒の割合は、県平均より5ポイント以上、下回っています。このことから、学校だけでなく、家庭でも教科書を読んだり、大事なところに線を引いたり、大事なことを自分でまとめる学習も必要と思われます。

にかほ市の未来を担う子どもたちの学力向上のために、今後ともご協力をお願いします。

